

船舶事故調査報告書

平成24年12月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成23年12月14日 20時52分ごろ
発生場所	大分県大分市大分港日吉原泊地 大分港日吉原泊地北防波堤北灯台から真方位188°500m付近 （概位 北緯33°15.4′ 東経131°46.0′）
事故調査の経過	平成23年12月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人がその後死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	砂利運搬船 第八大共丸、690トン 135513、大分共同海運株式会社 78.0m×13.5m×7.6m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成8年10月
乗組員等に関する情報	船長 男性 70歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和42年1月13日 免状交付年月日 平成21年3月19日 免状有効期間満了日 平成26年6月28日
死傷者等	なし
損傷	本船 バルバスバウに亀裂を伴う凹損、左舷船尾外板に凹損及び擦過傷 防波堤 先端部の標識灯に破損、先端部コンクリートブロックに亀裂、コンクリートブロック4個が南方に移動
事故の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、土壌約2,000tを積載して長崎県平戸市平戸港に向けて航行中、大分港大在ふ頭において乗組員の交替と船用品の積込みを行うため、平成23年12月14日20時49分ごろ、船長が1人で操船に当たり、レーダー画面を見ながら約7.1ノットの対地速力で大分港日吉原泊地東防波堤灯台と大分港日吉原泊地北防波堤北灯台との間の中央付近を港奥に向けて南西進した。 船長は、大分港大在泊地から日吉原泊地にかけて東西方向に築造された中防波堤（以下「本件防波堤」という。）の東側先端部にある標

	<p>識灯（以下「黄色点滅灯」という。）を船首方に見て航行した。</p> <p>船長は、黄色点滅灯までの距離がまだあると思い、周囲を目視しながら南西進を続けたところ、黄色点滅灯までの距離が近いことに気づき、直ちに機関を全速力後進にかけて左舵一杯を取ったが、本船は、20時52分ごろ船首部が本件防波堤の東側先端部に衝突した。</p> <p>本船は、衝突後、自力航行して大在ふ頭に着岸した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の末期</p>
その他の事項	<p>本船は、レーダー及びGPSプロッターを装備していた。</p> <p>船長は、6年振りに大分港に入港した。</p> <p>船長は、満載状態での操縦性能を考慮していなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、大分港において大在ふ頭に向けて入航中、船長が、黄色点滅灯を船首方に見て同灯までの距離がまだあると思い込み、周囲を目視しながら航行していたことから、本件防波堤に接近していることに気付かず、本件防波堤の東側先端部に衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、大分港において大在ふ頭に向けて入航中、船長が、周囲を目視しながら航行していたため、本件防波堤に接近していることに気付かず、本件防波堤の東側先端部に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間、狭い港内を航行する際には、目視によるだけでなく、レーダーやGPSプロッターを活用して船位を確認すること。